

HUMAN CITY KUMAMOTO

安全で快適な
都市基盤の整備



公園緑地

都市公園の整備は、大正13年に水前寺運動公園を建設したときから始まります。その後の計画的な整備により、平成5年度末には、580箇所、面積470ha、市民一人当たり7.3㎡の広さとなる見込みです。

今後さらに安全で快適な都市基盤の整備を図るため、

1. 地域に密着した街区公園、近隣公園などの基幹公園の計画的な整備を積極的にすすめる。
2. 中心市街地にオープンスペースを確保するため、河川敷公園、緑地の整備を促進する。
3. レクリエーション需要の高まりに対処して、広域公園の整備をすすめる。

ことを基本として、西暦2000年までに市民一人当たりの公園緑地面積を11㎡

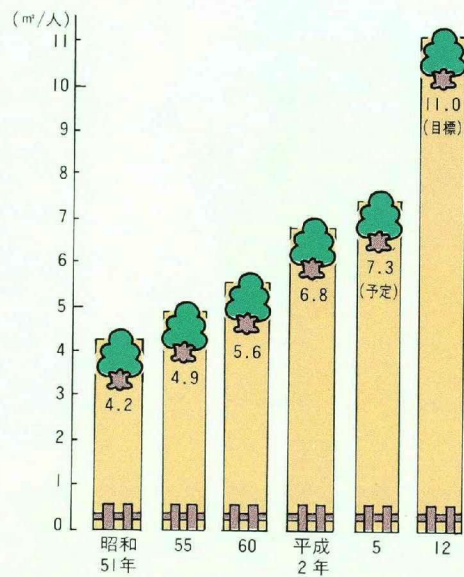
以上とすることを目標としています。

公園建設にあたっては多様化、高度化する市民の意向を反映し、周辺の公共施設や景観と連携を図りながら、社会の変化に的確に対応した「ふっと利用してみたい」魅力と活力のある公園づくりを推進しています。

公園リフレッシュ事業は、古い公園を、周辺環境の変化に伴い、現代に適合した公園として再整備しているもので、幸島公園は、周辺の住環境と調和のとれた活力ある街づくりの拠点として生まれ変わりました。

また、坪井川緑地は、健康への志向が高まる中、市民が、自然の中で気軽にスポーツを楽しむことのできる新しい公園として急ピッチで整備を進めています。

●一人当たり公園面積の推移



リフレッシュした幸島公園



HUMAN CITY KUMAMOTO

安全で快適な
都市基盤の整備



住宅

市営住宅

市営住宅は、市民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的として、昭和26年から市が国の援助を受けて、建設しているものです。

戦後は住宅難の時代を背景に、量の確保を目指してスタートしましたが、近年は市民の快適な生活環境を実現するため、質の向上に重点を置いて建設しています。また、高齢者や障害者にやさしい住まいづくりを目指し、間取りも広く設備も改善されたものに向上しました。

最近では、「豊かさゆとりを実感できる住まい」をテーマに、古くなった団地の建て替えも進めており、新地団地や託麻団地の様な斬新なデザインの団地も誕生しています。

このほか、市中心部のスプロール化を防止し、職住の近接を図るため、店

舗等の民間施設と敷地を共有した市営住宅の建設や、優良な民間賃貸住宅の借り上げも実施しており、市営住宅と併せて毎年500戸の住宅供給を行っています。

平成5年10月1日現在の市営住宅管理戸数は、9,803戸（約2万9千人が入居）で、その管理についても住宅の使用状況を把握しながら、適切に行っています。

建築指導

平成4年度の建築確認申請受付件数は4,702件で、対前年比で約5.7%増となっていますが、市の中心部の住宅建築戸数は、中高層共同住宅などへの立て替えが促進されたため、数年増加傾向を示していましたが、平成3年度からは減少傾向をたどっています。

本市では、建築基準法に基づく総合設計制度や建築協定を積極的に推進す



優秀建築物表彰作品（小沢町のマンション）

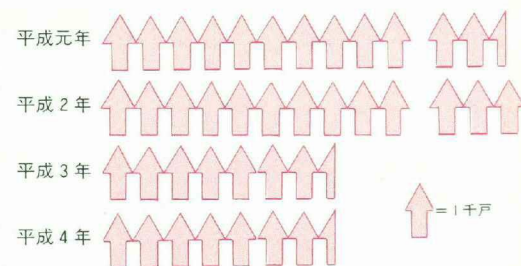
ることによって、市街地の環境改善や市民の自主的な街づくりへの参加など都市形成の施策を展開しています。また、昭和55年から優秀建築物表彰制度を設け、うるおいと安らぎのある質の高い町づくりを目指しています。

一方、市民の住環境に対する意識も高まりつつあり、建築行政への期待も多岐にわたっています。このため、電波障害の防止、パチンコ店の建築、中高層建築物の建築などの指導要綱を制定し、建築主と周辺住民の相互理解を図ることに努めています。

また、年々増加する既存建築物の防災対策は、市民の安全確保のため重要であり、大型店舗、病院、ホテルなどの不特定多数の人々が利用する特殊建築物を対象に、消防局と合同で定期的に防災査察を実施しています。

さらに、民間の建築関係団体の協力を得て違反建築の未然防止や建築パトロールを実施するなど市民と一体となった監視の強化を図っており、違反建築の減少が期待されています。

●住宅関係着工（新築）戸数の推移



上高橋団地



安全で快適な
都市基盤の整備



上水道



上水道は、市民の公衆衛生の向上や生活環境の改善に多大な貢献を果たすと共に、潤いのある生活や産業の振興に欠かせない施設として機能しています。

このため、都市の発展による水需要の増大に合わせ、施設の拡充や配水管網の整備等の先行投資を行い、断水や出水不良が起きないように水の安定供給に日々努めています。

本市は、水道水源のすべてを清冽で豊かな地下水に頼っている水環境に恵まれた全国屈指の都市です。しかし、近年、地下水の質・量の保全問題について市民の関心も年々高まり、このような状況を踏まえて本市の地下水と上水道について広く市民が学習し、理解してもらうため、平成2年10月に上水道創設の地である八景水谷公園内に「水の科学館」をオープンしました。

また、災害時や不慮の事故等による断水に備え一層の迅速対応を図るため、給水車を導入しました。この他、災害時の非常用飲料水と熊本のおいしい水のPRのため「水の缶詰」を製作しました。

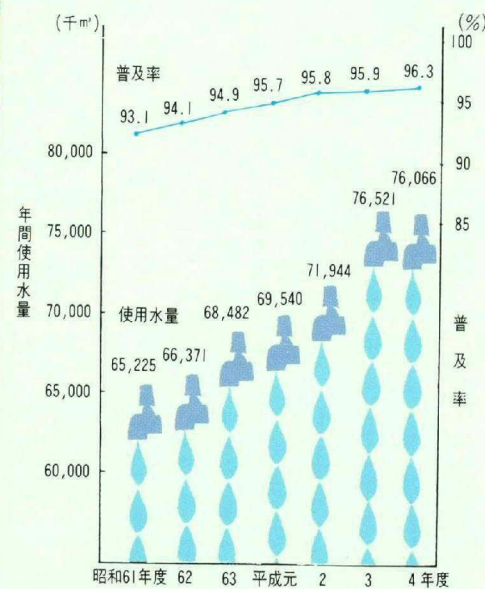
今後とも更なる市民サービスの向上を目指し「清浄・豊富・低廉」な水の安定供給に努めると共に社会情勢の変化に応じた事業を推進することとしています。



健軍水源地

●使用水量と普及率の推移

普及率＝給水人口/市総人口



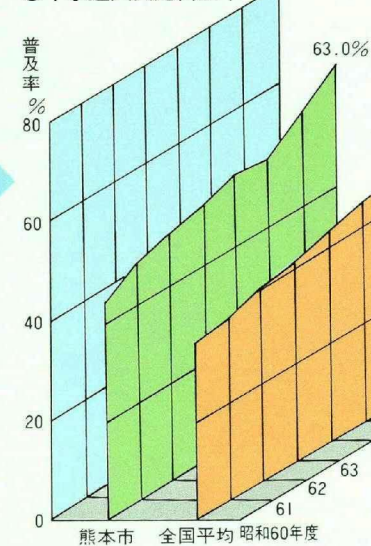
水の科学館

安全で快適な
都市基盤の整備



下水道

●下水道人口普及率

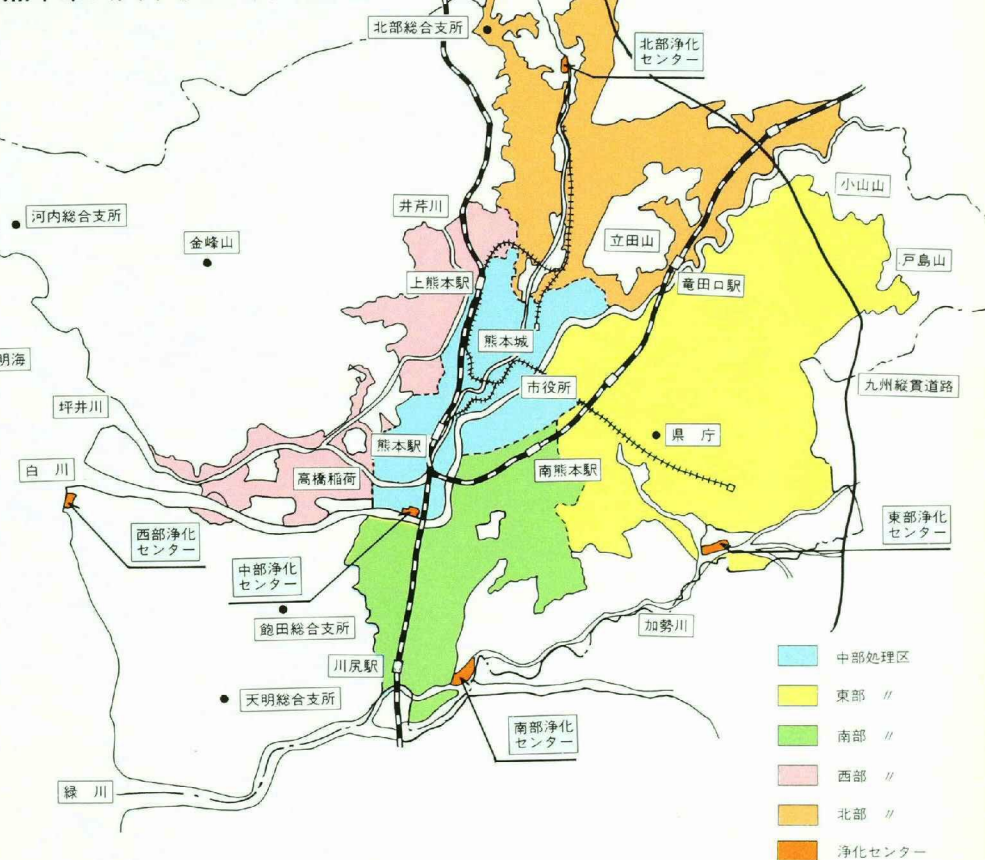


豊かな自然と快適な生活は私たちみんなの願いです。

下水道は生活や生産に使われた水を衛生的に排除し、きれいで安全な水に処理して、川・湖沼・海にもどすための施設です。

昭和23年に中心市街地に着手して以来、逐次区域を拡大し、現在10,708ha

●熊本市公共下水道基本計画図



東部浄化センター

の区域に基本計画を策定、事業認可区域は8,471haとなっています。

計画区域を5処理区に分割し、このうち中部、東部、南部、北部の各処理区については既に処理開始をしており、西部処理区については平成2年度より処理場の建設に着手しています。

平成4年度末における整備面積は6,134ha、処理人口39万人、人口普及率63.0%（全国平均47%）となっており、早期完備をめざし事業の推進を図っています。

なお、下水処理場で処理した水は有効な水資源となるため、中部浄化セン

ターでは、昭和60年から稲作のかんがい用水として近隣の水田225ha（対象農家戸数529戸）に供給しており、南部浄化センターでも場内の水洗便所、泉水に処理水を使用しています。

今後も処理水の有効な利用について積極的に取り組むことにしています。



道 路

都市計画道路

都市計画道路は、第11次道路整備5ヶ年計画（平成5年度～平成9年度）の整備方針に基づくとともに、総合的な観点に立ち熊本都市圏内の交通混雑の解消と市内交通の円滑化を図るため整備を進めています。

特に、主要な幹線道路については、環状、放射状に整備を行い市中心部への交通集中の弊害をなくし、交通施設の中核的役割を果たす道路に整備します。さらに、幹線道路を補完する道路については、適正かつ合理的な土地利用を促進させ、良好な住環境の保全、即ち地域の特性と緑地保存等にも配慮し、生活道路として利便性の高い道路に整備します。

現在、熊本市域の都市計画道路は、52路線の総延長195kmが決定され、延長108kmが改良済で、整備率は55.8%（H5.3.31現在）であります。平成6年度は保田窪菊陽線（通称国体道路）の整備に本格的に取り組むとともに、野口清水線等の13路線18箇所の整備を計画しています。

市道整備

道路は、都市の経済・文化が発展するための最も基本的な施設であり、非常に重要な社会資本です。

しかし、都市圏における自動車交通量の増大により、慢性化した交通渋滞が市内各所に発生しています。これらの対策として、主要幹線道路を補完する1・2級幹線市道の新設及び改良を実施しており、バイパス的役割と同時に地域間の交通ネットワークの形成など、計画に沿った事業の進展を図っています。

また近年は、経済力に見合った真の豊かさが実感できる生活実現のため、従来の無機質な構造物でなく、ゆとりや潤いのある道路の整備が強く求められています。このような社会的ニーズに応えるため、高齢者や障害者にも安全快適に通行できる歩道づくり、さらには歴史と文化の香り漂う、自然と調和し自然と会話できる四季感豊かな通行空間の創出に努めています。

地下駐車場

幸島公園地下駐車場は、駐車場不足と駐車需給のアンバランスを解消するため、市制100周年事業として建設し、平成5年2月に供用開始しました。

この駐車場は、歩行者の利便性、安全性に寄与する地下通路と一体になっており、自動車の収容数625台、二輪車400台、自転車500台を収容する九州で最大規模の地下駐車場です。



帯西小通り



駐車場案内誘導システムの案内板

駐車場案内誘導システム

さらに、既設駐車場の効率的利用を図り、交通混雑を緩和するため、平成5年9月26日から駐車場案内誘導システムが稼働しました。このシステムは、案内板により駐車場を捜しているドライバーに空き駐車場の位置などをわかりやすく知らせ、スムーズに駐車場まで案内するものです。案内する駐車場は、26ヶ所、収容台数は約5,400台で案内地区の約70%をカバーします。



熊本都市計画道路野口・清水線

HUMAN CITY KUMAMOTO

安全で快適な
都市基盤の整備



基幹交通



熊本空港

昭和46年4月、高遊原台地に開港した熊本空港は、昭和55年に滑走路が3kmに延長されたほか、昭和58年国際線ターミナルビル、63年には新貨物ビル、平成3年1月には新ターミナルビルがオープンするなど大型化、国際化が進むフライト事情に十分対応できる施設・機能の整備拡充が行われています。

また平成4年には霧対策として、ILS高カテゴリー化が着手され、平成7年には、就航率が大幅に改善できるようになります。

現在、国内線では、全日本空輸、日本エアシステムに加え、平成3年7月から日本航空も就航しており、東京へ一日8便、大阪へ5便、名古屋、沖縄へ各1便が運航しているほか、平成4年6月には札幌線も開設され、週3便が運行しています。また、国際化の進展する中、昭和54年に運航開始されたソウル線が、現在大韓航空により週2便運航されているほか、中国、東南アジア、ハワイ、豪州方面へのチャ

ーター便も増えています。

このように空港施設の充実、航空路線の拡充に伴い、開港当時48万人にすぎなかった乗降客は平成4年には228万人に、貨物は1,900tから17,190tに達しており、熊本の空の玄関として、熊本空港の果たす役割はこれまで以上に重要なものになると予想されています。

鉄道網

九州を縦断する鹿児島本線と、横断する豊肥本線は本市で交わり、九州の大動脈として観光、ビジネス、流通など広い分野にわたって重要な役割を果たしています。

市域内には、両線が結節する熊本駅のほか、鹿児島本線に西里駅、熊本工大前駅、上熊本駅、川尻駅の4駅、豊肥本線に平成駅、南熊本駅、新水前寺駅、水前寺駅、東海学園前駅、竜田口駅、武蔵塚駅の7駅があり、合計で年間1千6百万人以上の乗降客が利用しています。

一方、九州新幹線鉄道（博多～西鹿児島計画延長249km）は、八代～西鹿児島間が平成3年9月に着工されましたが、都市間交通の利便性の飛躍的向上と地域発展に大きく寄与することから、その早期全線整備が強く望まれています。

九州縦貫自動車道

本州と連結する九州縦貫自動車道は、北九州～鹿児島、宮崎を結ぶ計画延長432kmの高速自動車道であり、現在北九州～人吉、えびの～鹿児島、えびの～宮崎間の約409km、総延長の95%が開通しています。

平成4年には、熊本インターの出入交通量が年間784万台を超え、また、都市間高速バス輸送の拡充が進むなど、九州の動脈路

熊本空港



熊本港

線として利用は年々増加しています。

また、未開通の人吉～えびのの間については、平成7年度の開通に向け、工事が進められており、開通すれば青森から鹿児島、宮崎まで約2,150kmが高速道路で結ばれることになり、九州の中央に位置する本市の拠点性の一層の向上を図るためにも、全線の早期開通が待たれるところです。

熊本港

昭和49年4月重要港湾に指定された熊本港は、物資流通の拠点として、熊本都市圏に低コスト大量輸送の門戸を開き海外への窓口として、貿易の振興に寄与するとともに、企業立地や道路網の整備を通して、本市西部はもとより、都市圏経済の発展に貢献する基幹流通施設として期待されています。

昭和63年3月には、熊本港大橋（872m）と物揚場、また、平成4年にはフェリー用の岩壁及びターミナルが完成し、平成5年3月に島原と結ぶフェリーの就航により待望の開港が実現しました。平成6年秋には、700トン級の岸壁が供用開始する予定です。

また、港湾埋立地内には、流通加工型工業の立地や、マリーナ、人工海浜などの施設が併設され、海洋性レクリエーション基地がつくられる予定です。

HUMAN CITY KUMAMOTO

いま、いまとした
市民福祉都市を目指して

本市は、すべての市民が、お互いの温かいおもいやりの中で、健康で生きがいに満ちた暮らしを営む社会を築く。また、市民一人ひとりが自立し、各人の能力が自由に発揮され、個性と創造性あふれる多彩な人材が育つ都市を目指す。

